

日本医学会だより

JAMS News

2005年10月 No. 34
日本医学会

◆第130回日本医学会シンポジウム

「心房細動と突然死」をテーマに、2005年12月8日(木)、日本医師会大講堂において開催。組織委員は、小川 聡、児玉逸雄、井上 博の各氏。参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ (<http://www.med.or.jp/jams/>) で申し込まれたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。

I. 病態生理から見た不整脈の治療

1. 不整脈の発生機序/児玉逸雄 (名大環境医学研究所長)
2. 不整脈の発生基盤/熊谷浩一郎 (福岡大・内科学)
3. 抗不整脈薬の種類と使い方/加藤貴雄 (日医大・内科学)

II. 心房細動の診療

1. 疫学・病態生理/井上 博 (富山大・内科学)
2. 治療：リズム vs レート治療/山下武志 (心臓血管研・循環器科学)
3. 塞栓症対策/是恒之宏 (大阪医療センター/臨床研究部)

III. 突然死の予知と対策

1. 疫学・病態生理/鎌倉史郎 (国立循環器病センター・緊急部)
2. 予防対策への戦略：その予知法と薬物療法/池田隆徳 (杏林大・内科学)
3. 予防対策への戦略：ICDとAED/三田村秀雄 (東京都済生会中央病院)

◆「がん治療専門医」をめぐる提言

本会は「がん治療専門医制検討委員会」を5月に新設し、がん治療専門医の問題をめぐる、日本臨床腫瘍学会と日本癌治療学会との意見の対立が社会的な問題となったので、この問題を検討した。

その結果、がん治療専門医に関連する諸学会が独自にがん専門医を認定することによって、がん患者やその関係者が混乱するような状況をさけるため、以下のことを提案したい。

- 1) がんに関する基盤的な幅広い事項、すなわちがんの細胞生物学、病理・病態、診断、治療(緩和医療)、予防に関する知識・技術を取得していることを認めるがん治療認定医制を設ける。
- 2) がん治療認定医制に関する共通カリキュラムの作成を(1)日本癌学会、(2)日本癌治療学会、(3)日本臨床腫瘍学会の3学会が中心となって作成(必要に応じて他学会も参加)し、その認定も3学会共通で行う。なお共通カリキュラムの内容、認定方法に関して3学会間で、今後合同の委員会などを設けて具体的な方策を協議する。これらの事項に関する庶務的業務を日本癌治療学会が取り扱う。
- 3) がん治療認定医の上に、がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)、(がん)放射線治療専門医(日本医学放射線学会)、その他がん治療に関する専門医(その他のがん治療関連学会)をおき、がん治療に関して認定医と専門医の2段階制とする。

◆医学賞・医学助成費の決定

選考委員会を9月7日に開催し、平成17年度の日本医師会医学賞・医学研究助成費の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞24、助成費61を審査した。

選考の結果、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において、医学賞は3名、助成費は15件を授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・サイトカインの分子生物学・免疫学的研究/平野俊夫(大阪大・病理病態学)
- ・インスリン作用と糖尿病発症機序の解明/春日雅人(神戸大・内科学)
- ・尿路移行上皮がんの多発性に関する生物学的特性の解析にもとづく、膀胱全摘除術後も尿道から自然排尿可能な手術法の開発/垣添忠生(国立がんセンター・泌尿器科学)

〈日本医師会医学研究助成費〉

- ・致死性不整脈における過分極誘発陽イオンチャネルの病態生理学的機能の解明/鷹野誠(自治医大・生理学)
- ・DNAM-1(CD226)の腫瘍免疫における役割/澁谷彰(筑波大・免疫制御医学)
- ・発癌における脱分化機構の解明/山中伸弥(京都大再生研・再生誘導)
- ・Abl-Lynキナーゼ同時阻害剤NS-187による難治性慢性骨髄性白血病治療法の開発/木村晋也(京都大・輸血細胞治療部)
- ・アドレノメデュリン-RAMP2系の血管再生における意義と治療応用/新藤隆行(信州大・臓器発生制御医学)
- ・エネルギー代謝転写調節研究による生活習慣病の分子機序の解明と新規治療法の開発/島野仁(筑波大・代謝・内分泌制御医学)

- ・アルツハイマー病(AD)患者家族の介護負担増悪の関連要因：痴呆の重症度からの検討/荒井由美子(国立長寿医療セ・長寿政策科学研究部)
- ・ビタミンDによる骨粗鬆症の予防医学的研究—高齢者の骨折および骨密度をアウトカムとしたコホート研究—/中村和利(新潟大・地域予防医学)
- ・安全なHLA不適合移植を可能にする自殺遺伝子導入ドナーリンパ球輸注療法の臨床研究/長澤俊郎(筑波大・血液病態制御医学)
- ・siRNAライブラリを用いた癌エピジェネティクス異常メカニズムの解明と分子標的治療の開発/鈴木拓(札幌医大・公衆衛生学)
- ・IDO非発現性樹状細胞—癌細胞の融合細胞を用いたantigen-specific polyclonal CTLの誘導と増幅/小井戸薫雄(慈恵医大・内科学)
- ・血管内膜平滑筋細胞の遊離型分化抑制因子LR11の機序解明とその臨床応用/武城英明(千葉大・臨床遺伝子応用医学)
- ・酸化ストレス、JNK経路を介した糖尿病発症・進展の分子機構の解明/金藤秀明(大阪大・病態情報内科学)
- ・アデノウイルス性結膜炎の新しい薬物療法の開発/内尾英一(福岡大・眼科学)
- ・麻酔薬の中樞神経作用とGABA受容体を介する抑制系ニューロンネットワーク：GABA合成酵素ノックアウトマウスでの解析/西川光一(群馬大・麻酔科学)

◆第1回日本医学学会公開フォーラム

「医学・医療の今—がんに挑む—」をテーマに、10月8日(土、日本医師会大講堂)に開催。組織委員は、垣添忠生、江口研二、五阿弥宏安の各氏。日本医学学会が今年度から市民を対象にした公開フォーラムを行う。終了1か月後に、このフォーラムの状況をホームページに開設する。